

青森県埋蔵文化財調査報告書 第314集

# 小奥戸(4)遺跡Ⅱ

—大間原子力発電所建設事業に伴う遺跡発掘調査報告—

2002年1月

青森県教育委員会



# 小奥戸(4)遺跡Ⅱ

－大間原子力発電所建設事業に伴う遺跡発掘調査報告－

2002年1月

青森県教育委員会



## 序

大間原子力発電所建設に伴う遺跡の発掘調査は、過去に青森県教育庁文化課によって、遺跡の確認調査と試掘調査、及び小奥戸（１）遺跡の発掘調査がなされており、当センターにおいても白砂遺跡、小奥戸（２）遺跡等の、大間町に所在するいくつかの遺跡の調査を実施して参りました。

大間町は、本州最北端に位置し、間近に北海道を望む地理的特性のためか、過去の当センターの発掘調査でも、北海道の影響の濃い遺物を出土することが知られております。

小奥戸（４）遺跡は、津軽海峡を望む海岸段丘上に立地する遺跡です。平成８年度に試掘調査、平成９年度に発掘調査を実施しておりますが、今回報告するのは、平成１２年度に発掘調査を行った分です。調査の結果では、縄文時代の石器、奈良時代の遺物が出土しております。

この報告書が、大間町のみならず、周辺地域の歴史研究や文化財保護に活用されることを期待し、最後になりましたが、この調査の実施及び報告書の作成にあたり、御指導・御協力を賜りました関係各位に対し、厚く感謝申し上げます。

平成１４年１月

青森県埋蔵文化財調査センター

所長 中島 邦夫



## 例 言 ・ 凡 例

- 1 本報告書は、大間原子力発電所建設事業に伴い平成12年度に実施した大間町小奥戸（4）遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 本遺跡の所在地は、大間町奥戸字小奥戸、外である。  
県遺跡番号は、52026として登録されている。
- 3 本報告書の編集執筆は、野村信生が担当し、遺構と遺物の実測図と図版等の作成は、上記職員と調査補助員および室内作業員が行った。
- 4 石質鑑定については八戸市文化財審議委員 松山力に依頼した。（敬称略）
- 5 本書に掲載した地形図（遺跡の位置）は、国土地理院発行の5万分の1地形図を複製したもので、縮尺は変更している。
- 6 挿図の縮尺は、図ごとにスケールを付した。
- 7 遺物写真の縮尺は、図中に表示した。
- 8 堆積土の色調は、『新版標準土色帖』（小山正忠、竹原秀雄 1993）を用いた。
- 9 本稿で使用した遺構の略号は、SKを土坑とした。
- 10 引用文献については、第4章の後に取めた。
- 11 発掘調査における出土遺物、実測図、写真等は、現在、青森県埋蔵文化財調査センターで保管している。





# 目 次

序

例言・凡例

目次

挿図目次

表目次

写真図版目次

## 第1章 調査概要

- 第1節 調査要項……………1
- 第2節 調査の方法……………3
- 第3節 調査の経過……………3

## 第2章 遺跡の環境

- 立地と周辺の遺跡……………5

## 第3章 遺構と遺物

- 第1節 概要……………5
- 第2節 検出遺構……………5
- 第3節 出土遺物……………7
  - 土器……………7
  - 土製品……………7
  - 石器……………7

## 第4章 ま と め……………11

引用・参考文献

遺物観察表

写真図版

報告書抄録

## 挿図目次

図1 遺跡位置	2	図5 遺構外出土土器	9
図2 基本層序	3	図6 遺構外出土土器・土製品	10
図3 遺構配置	4	図7 遺構外出土石器	10
図4 土坑(SK1~8)	8		

## 表目次

表1 遺構外出土土器	12	表3 遺構外出土石器	12
表2 遺構外出土土製品	12		

## 写真図版目次

写真1	13	写真4	16
写真2	14	写真5	17
写真3	15	写真6	18



# 第1章 調査概要

## 第1節 調査要項

### 1 調査目的

大間原子力発電所建設事業の実施に先立ち、当該地区に所在する小奥戸（4）遺跡の埋蔵文化財発掘調査を行い、その記録を保存して、地域社会の文化財の活用に資する。

### 2 遺跡名および所在地 小奥戸（4）遺跡（青森県遺跡番号52026）

青森県大間町奥戸字小奥戸、外

### 3 発掘調査期間 平成12年4月18日～同年5月31日

### 4 調査面積 3,000平方メートル

### 5 調査委託者 電源開発株式会社

### 6 調査受託者 青森県教育委員会

### 7 調査担当機関 青森県埋蔵文化財調査センター

### 8 調査体制

調査指導員	市川 金丸	青森県考古学会会長（考古学）
調査員	松山 力	八戸市文化財審議委員（地質学）
	葛西 勲	青森短期大学助教授（考古学）

調査担当者 青森県埋蔵文化財調査センター

所 長 中島 邦夫

次 長 成田 誠治

総務課長 西口 良一

調査第三課長 木村 鐵次郎

文化財保護主事 野村 信生

調査補助員 工藤 美希 小島由記子 嶋中加那子 細川志穂子

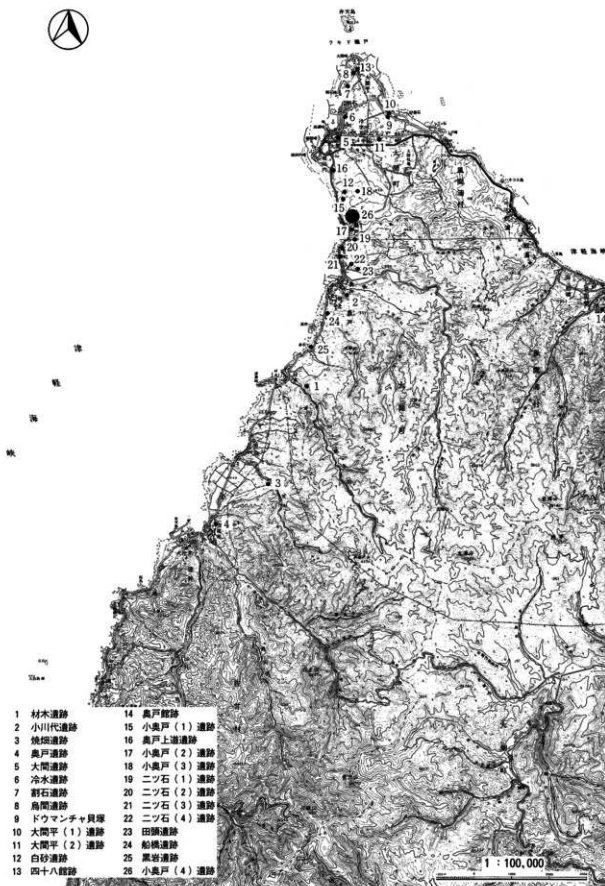


図1 遺跡位置

## 第2節 調査の方法

グリッドは平面直角座標系に基づいた5mメッシュの方眼とした。X=167317・Y=6782を基点とし、北から南に向けて5mごとに算用数字で表示し、西から東に向けて5mごとにアルファベットで表示した。算用数字はX=167367を起点ラインとして、北から南に1・2・3……と設定した。アルファベットはY=6782を起点ラインとして、西から東にAA・AB・AC……と設定した。

表土除去作業にはバックホーを使用した。表土下は作業員により掘り下げを行い、随時遺構検出を行った。遺構は発見順に遺構名を設定し、原則として1/20で実測図を作成した。遺構以外の出土遺物の取り上げは、層位を確定しグリッド単位で行った。調査にあたっては、土層の堆積状況を観察するため適宜セクションベルトを設定し、土層注記は『標準土色帖』を用いた。土層の名称は、基本層序については上層から下位にローマ数字を、遺構内堆積土については上位から下位に算用数字を設定した。

写真撮影は適宜行うこととし、モノクローム、カラーリバーサル、カラーネガの各種のフィルムを使用した。

## 第3節 調査の経過

調査は平成12年4月18日に開始した。NO, D187 (X=167272, Y=6772) を基準として、調査区内にNO, D187-1 (X=167272, Y=6807) を設置した。この平面直角座標系を基点として調査区内に5mのグリッドを設定した。4月下旬にはトレンチを設定し、遺構・遺物の出土状況を確認した。土坑・柱穴が確認され、また土師器片・紡錘車・石器が確認されたことから、バックホーにより調査区全域の表土を除去した。5月24日から重機による調査区の埋め戻し作業を行った。調査は5月下旬にはほぼ終了し、5月31日に撤収した。

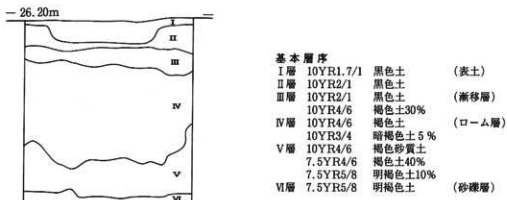


図2 基本層序 (1:40)

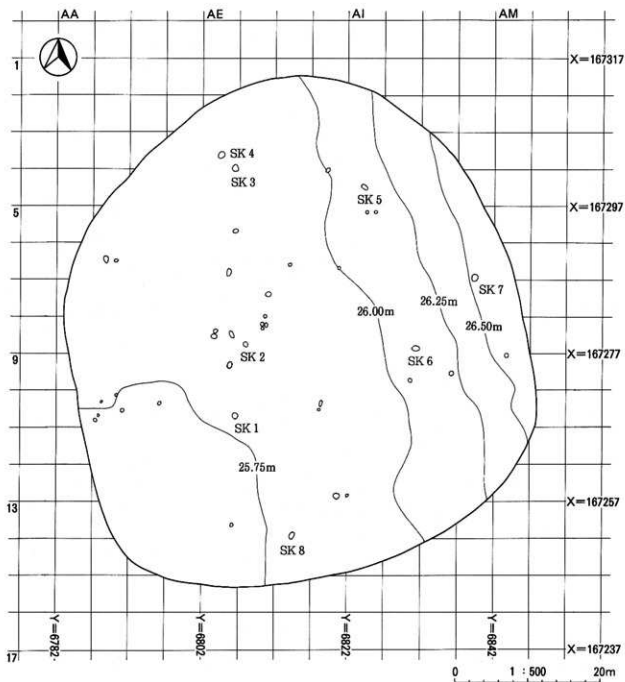


図3 遺構配置

## 第2章 遺跡の環境

### 立地と周辺の遺跡

小奥戸（4）遺跡は、本州最北端である大間崎南方約4.3km、津軽海峡に面した標高約26mの海岸段丘上に位置する。海岸段丘は西吹付山麓から続く平地に形成され、遺跡の北側には小奥戸川、南側に奥戸川と豊かな水源に恵まれる。また、海岸まで約250mと近く、豊かな海産物にも恵まれた場所である。

大間崎周辺は海岸段丘が発達しており、大矢・市瀬（1957）が以下のとおり区分している。海拔160～150mを高位平坦面上位・下位海拔110～90mを高位平坦面下位、海拔90～70mを第3段丘、海拔50～40mを第3段丘・第4段丘中間面、海拔40～20mを第4段丘、海拔20～10mを第5段丘。この区分によると小奥戸（4）遺跡は第4段丘に相当する。

遺跡内の層序は安定しており、図2の通りである。黒色土の堆積は薄くⅠ・Ⅱ層に分かれ、Ⅱ層を中心に土師器等の遺物が出土した。ローム漸移層をⅢ層とし、遺構検出を行った。

大間町内の遺跡は、1998年刊行の『青森県遺跡地図』によると26箇所登録されている。遺跡は海岸段丘上の縁辺部に形成され、小奥戸川下流域と奥戸川下流域周辺の海岸段丘上に集中する。遺跡の北西側約500mに小奥戸（1）遺跡、南側約350mに小奥戸（2）遺跡、北側約700mに小奥戸（3）遺跡が所在する。また北海道系である擦文土器が出土した遺跡は、奥戸遺跡・大間遺跡・割石遺跡・小奥戸（1）遺跡の4遺跡である。

## 第3章 遺構と遺物

### 第1節 概 要

小奥戸（4）遺跡からは、土坑・柱穴が出土した。相伴する遺物がないため、明確な時期を確定するのは困難である。検出はⅢ層上面で行った。検出面からの掘り込みが浅く、明確に機能を把握できるものがないため、一部の土坑のみ記載した。なお遺構配置図には全ての遺構を記載した。遺物はⅡ層を中心に、土師器・土製品・石器が少量出土した。土師器は細片のみで、器形を復元できるものは出土しなかった。土製品は紡錘車が2点、石器は有茎石鏃が1点、使用痕がある剥片が4点出土した。

### 第2節 検出遺構

第1号土坑（図4）

〔位置〕 標高25.84mのAE10グリッドに位置する。

〔規模・形状〕長軸80×短軸68×深さ16cmである。平面は楕円形、底面は平坦で壁はやや外傾する。

〔堆積土〕黒褐色土が主体となる自然堆積である。

#### 第2号土坑（図4）

〔位置〕標高25.90mのAF8グリッドに位置する。

〔規模・形状〕長軸68×短軸60×深さ26cmである。平面は円形、底面は若干起伏し、壁はやや外傾する。

〔堆積土〕自然堆積である。

#### 第3号土坑（図4）

〔位置〕標高25.84mのAE3・4グリッドに位置する。

〔規模・形状〕長軸88×短軸80×深さ20cmである。平面は不整形、底面はほぼ平坦で壁はやや外傾する。

〔堆積土〕自然堆積である。

#### 第4号土坑（図4）

〔位置〕標高25.84mのAE3グリッドに位置する。

〔規模・形状〕長軸100×短軸76×深さ20cmである。平面は円形、底面は有段となるがほぼ平坦で壁はやや外傾する。

〔堆積土〕自然堆積である。

#### 第5号土坑（図4）

〔位置〕標高26.06mのAI4グリッドに位置する。

〔規模・形状〕長軸92×短軸48×深さ16cmである。平面は隅丸方形、底面は起伏し、壁はやや外傾する。

〔堆積土〕自然堆積である。

#### 第6号土坑（図4）

〔位置〕標高26.10mのAJ8グリッドに位置する。

〔規模・形状〕長軸94×短軸68×深さ22cmである。平面は楕円形、底面は起伏し、壁はやや外傾する。

〔堆積土〕自然堆積である。

#### 第7号土坑（図4）

〔位置〕標高25.54mのAL6グリッドである。

〔規模・形状〕長軸96×短軸84×深さ10cmである。平面形は円形、底面はほぼ平坦で壁はやや外傾する。

〔堆積土〕自然堆積である。



## 第8号土坑（図4）

〔位置〕標高25.84mのA J 13グリッドに位置する。

〔規模・形状〕長軸98×短軸56×深さ24cmである。平面形は楕円形、底面が起伏し、壁はやや外傾する。

〔堆積土〕自然堆積である。

## 第3節 出土遺物

## 土器（図5・6-1～30）

土師器のみの出土で、坏・甕が確認できた。ここでは細片が少量出土したのみなので、細かな分類はさけ、器種別に報告する。

## 坏（図5-4～9・12）

全て非ロクロ成形である。4・6は口縁部に段をもつ。4は口縁部に回転ナデ、体部と内面にミガキを施す。5～8は内外面にミガキを施す。9は内外面にナデを施す。12は外面にナデ、内面にミガキを施す。6は内面に黒色処理が施され、4・5・8・9・12は薄く、7はさらに薄く黒色処理が施される。

## 甕（図5・6-1～3・10・11・13～30）

全て非ロクロ成形である。26～30は同一個体である。口唇部の断面は三角形・平坦・沈線を施すものがある。調整は口縁部に回転ナデ・ナデを施す。体部と底部はミガキ・ナデ・ケズリ・ハケが施される。内面にはミガキ・ナデが施される。

## 土製品（図6-31・32）

2点の紡錘車が出土した。外面にナデ調整を施す。

## 石器（図7）

5点出土した。1は有茎石鏃、2～5は使用痕がある剥片である。

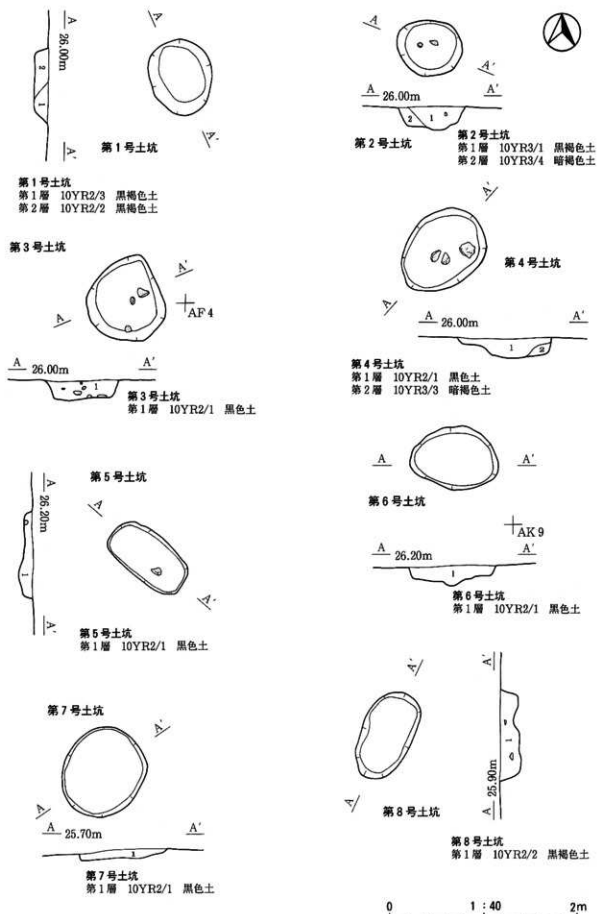


图4 土坑

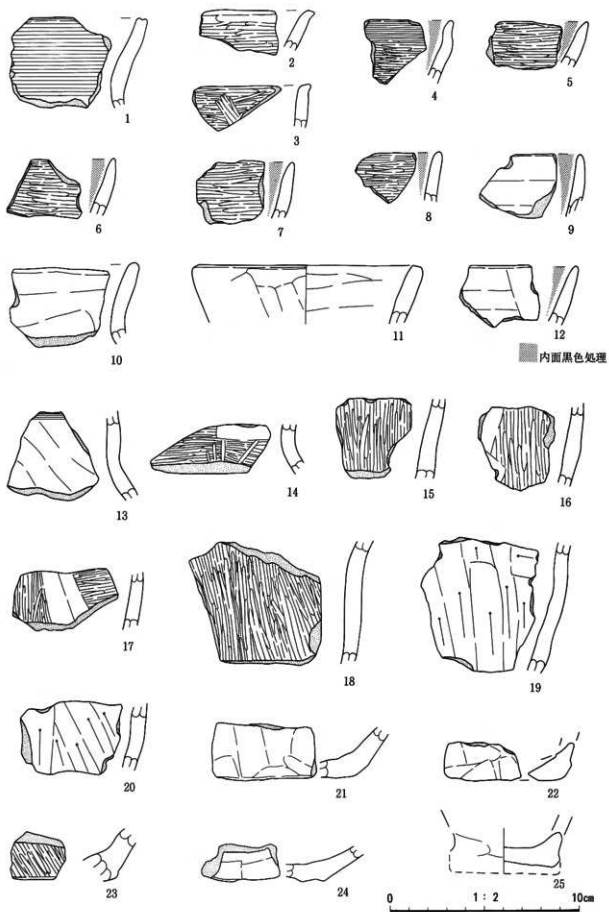


図5 遺構外出土土器

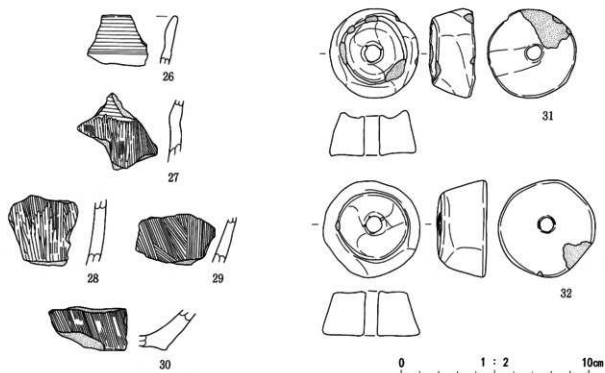


図6 遺構外出土土器

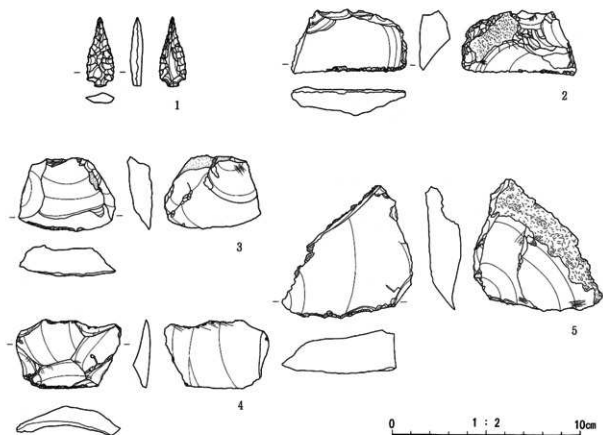


図7 遺構外出土石器

## 第4章 まとめ

平成12年度調査の小奥戸（4）遺跡からは、土坑・柱穴、少量の土器・土製品・石器が出土した。

遺物はⅡ層を中心に出土したが、黒色土であったため遺構検出は困難であり、Ⅲ層上面で検出した。検出面からの遺構の掘り込みは浅く、共存する遺物は出土しなかった。また配置に規則性はなく、機能を把握することができるものはなかった。Ⅱ層から遺物が出土することから、本来はⅡ層中から掘り込まれたと考えられる。遺構の時期に関しては、共存する遺物がないため明確な時期は不明である。

土器は土師器のみが出土し、坏・甕の2器種が確認できた。坏は非ロクロ成形で、外面に回転ナデ・ミガキ・ナデ調整、内面にミガキ・ナデ調整が施される。器壁は厚く、口縁部下が若干屈曲し段を有するものもある。内面は黒色処理が施されるが、色の濃淡が3つに分類される。甕は非ロクロ成形で、外面に回転ナデ・ミガキ・ナデ・ケズリ・ハケ調整、内面にミガキ・ナデ調整が施される。細片資料であるため部分的な特徴であるが、坏の非ロクロ成形、甕の口唇部にみられる沈線等から、7世紀後葉～8世紀中葉（飛鳥・奈良時代）と考えられる。土製紡錘車についてもⅡ層から出土しているため、同時期と考えるのが妥当と思われる。石器については、平成9年度の青森県埋蔵文化財調査センターの調査で、縄文時代晩期末～弥生時代初頭と考えられる土器片が出土していることから、同時期の可能性が考えられる。

今回の調査では、集落の中心的場所ではないが、人間の活動の痕跡が確認された。

### 引用・参考文献

- |          |      |                                       |
|----------|------|---------------------------------------|
| 青森県教育委員会 | 1992 | 【小奥戸（1）遺跡】青森県埋蔵文化財調査報告書第154集          |
| 青森県教育委員会 | 1995 | 【白砂遺跡】青森県埋蔵文化財調査報告書第189集              |
| 青森県教育委員会 | 1998 | 【小奥戸（2）遺跡 小奥戸（4）遺跡】青森県埋蔵文化財調査報告書第240集 |
| 大間町教育委員会 | 1993 | 【大間町二ツ石2遺跡】大間町文化財調査報告書第6集             |

表1 遺構外出土土器

図版番号	グリッド	層位	器種	外面色調	外面調整	内面調整	備 考
5-1	AE-6	Ⅱ	甕	7.5YR6/6橙	回転ナデ	ナデ	
-2	AE-5	Ⅱ	甕	10YR6/4にぶい黄橙	ミガキ ナデ	ミガキ	
-3	AE-5	Ⅱ	甕	7.5YR5/4にぶい褐	ミガキ	ミガキ	
-4	AE-5	Ⅱ	坏	10YR4/2灰黄褐	回転ナデ ミガキ	ミガキ	内面黒色処理(薄)
-5	AE-5	Ⅱ	坏	7.5YR6/6橙	ミガキ	ミガキ	内面黒色処理(薄)
-6	AE-5	Ⅱ	坏	10YR6/4にぶい黄橙	ミガキ	ミガキ	内面黒色処理(濃)
-7	AE-5	Ⅱ	坏	7.5YR6/4にぶい橙	ミガキ	ミガキ	内面黒色処理(さらに薄)
-8	AE-5	Ⅱ	坏	10YR4/2灰黄褐	ミガキ	ミガキ	内面黒色処理(薄)
-9	AE-8	Ⅱ	坏	5YR6/6橙	ナデ	ナデ	内面黒色処理(薄)
-10	AH-9	Ⅱ	甕	7.5YR6/4にぶい橙	ナデ	ナデ	
-11	AE-5	Ⅰ	甕	7.5YR6/6橙	ナデ	ナデ	口径11.3 (cm)
-12	AE-6	Ⅱ	坏	10YR6/4にぶい黄橙	ナデ	ナデ	内面黒色処理(薄)
-13	AE-5	Ⅱ	甕	5YR6/6橙	ナデ 回転ナデ	ナデ	
-14	AE-5	Ⅰ	甕	5YR5/4にぶい赤褐	ミガキ ナデ	ナデ	
-15	AE-5	Ⅱ	甕	10YR3/2黒褐	ミガキ	ナデ	
-16	AE-5	Ⅱ	甕	7.5YR4/6褐	ミガキ ナデ	ナデ	
-17	AH-9	Ⅱ	甕	10YR4/3にぶい黄褐	ミガキ ナデ	ナデ	外面煤状炭化物付着
-18	AE-6	Ⅱ	甕	7.5YR5/6明褐	ミガキ	ナデ	
-19	AE-5	Ⅱ	甕	10YR6/4にぶい黄橙	ケズリ	ナデ	
-20	AE-5	Ⅱ	甕	10YR5/4にぶい黄褐	ケズリ	ナデ	
-21	AH-9	Ⅱ	甕	7.5YR5/4にぶい褐	ナデ	ナデ	
-22	AE-5	Ⅱ	甕	7.5YR6/4にぶい橙	ナデ	不明	
-23	AE-5	Ⅱ	甕	10YR3/1黒褐	ミガキ	ナデ	
-24	AE-5	Ⅱ	甕	10YR5/2灰黄褐	ナデ	ミガキ	底面ケズリ
-25	AH-9	Ⅱ	甕	7.5YR6/4にぶい橙	ナデ	ナデ	
6-26	AF-10	Ⅱ	甕	5YR4/6赤褐	回転ナデ	回転ナデ	26~30同一個体
-27	AF-10	Ⅱ	甕	5YR4/4にぶい赤褐	回転ナデ ハケ ミガキ	ナデ	
-28	AF-10	Ⅱ	甕	5YR4/4にぶい赤褐	ハケ ミガキ	ナデ ミガキ	
-29	AF-10	Ⅱ	甕	5YR4/4にぶい赤褐	ハケ	ナデ	外面煤状炭化物付着
-30	AF-10	Ⅱ	甕	5YR4/6赤褐	ハケ	ミガキ	

表2 遺構外出土土製品

図版番号	グリッド	層位	色 調	調 整
6-31	AE-5	Ⅱ	7.5YR5/6明褐	ナデ
-32	AE-6	Ⅱ	7.5YR4/6褐	ナデ

表3 遺構外出土石器

図版番号	グリッド	層位	器種	長さ: mm	幅: mm	厚さ: mm	重さ: g	石材
7-1	AE-12	Ⅱ	有茎石鏃	37	14	7	37	珪質頁岩
-2	AF-3	Ⅳ	使用痕がある剥片	35	60	15	27.6	珪質頁岩
-3	AE-5	Ⅲ	使用痕がある剥片	39	51	16	24.3	珪質頁岩
-4	AB-10	Ⅱ	使用痕がある剥片	55	36	9	17.1	珪質頁岩
-5	不明	Ⅱ	使用痕がある剥片	70	68	23	77.7	珪質頁岩



遺跡遠景



遺跡遠景



遺跡近景



周辺風景



周辺風景



基本層序



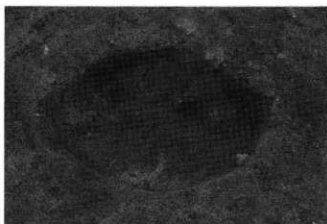
遺跡全景



遺跡全景



第1号土坑断面



第1号土坑完掘



第4号土坑完掘

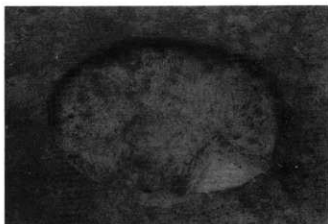




第 3 号土坑断面



第 3 号土坑完掘



第 7 号土坑完掘



2



3



4



5



6



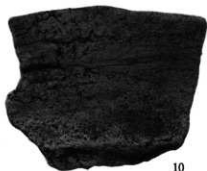
7



8



9



10



11

S=1/1

写真 4



12



18



19



29



30



31



32



1



2



3



4



5

写真 6

S=1/1

## 報告書抄録

ふりがな	こおこっぺかっこよんいせき							
書名	小奥戸(4)遺跡							
副書名	大間原子力発電所建設事業に伴う遺跡発掘調査報告							
巻次								
シリーズ名	青森県埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第314集							
編著者名	野村 信生							
編集機関	青森県埋蔵文化財調査センター							
所在地	〒038-0042 青森市大字新城字天田内152-15 TEL 017(788)5701 FAX 017(788)5702							
発行年月日	2002年1月25日							
ふりがな	ふりがな	コ ー ド		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
こおこっぺかっこよんいせき遺跡	青森県下北部大間町大字奥戸字小奥戸地内	02423	52026	41°30′	140°54′	20000418 ～ 20000531	3,000	大間原子力発電所建設事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
小奥戸(4)遺跡	散布地	縄文  飛鳥奈良		石器  土師器				

---

青森県埋蔵文化財調査報告書 第314集

## 小 奥 戸 ( 4 ) 遺 跡

一大間原子力発電所建設事業に伴う遺跡発掘調査報告一

発行年月日 2002年1月25日  
発 行 青森県教育委員会  
編 集 青森県埋蔵文化財調査センター  
〒038-0042 青森市大字新城字天田内152-15  
TEL 017-788-5701 FAX 017-788-5702  
印 刷 所 高金印刷株式会社  
〒038-0015 青森市千刈2丁目1-30  
TEL 017-781-0519・2244 FAX 017-781-2509

---





活彩あomorい

—輝くあomorい新時代—